

第167回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成23年4月7日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル会議室

3 委員の出席 委員総数 7人
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (副委員長)
青木 敬信
片岡 真理
古磯 勝子
島田 恭子
森内 律子

(2) 欠席委員の氏名 早川 富美子(委員長)

(3) 放送事業者側出席者 神野 俊彦(代表取締役社長)
佐藤 望(放送部部长)
古寺 雄史(放送部主任)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

3月11日に放送した「B-BOX Friday HYPER」について、
試聴と意見交換を行った。

事業者 3月11日14時46分、この番組の生放送中に、
マグニチュード9という大地震が起こりました。

スタジオも尋常ではないほどの大きな揺れの中、地震情報を伝え、
その後も、通常の放送を変更して、急遽、地震情報特番に切り替えて放送をしました。

当時、県内でも停電が続き、緊急時の情報発信源として、
ラジオは大きな役割を果たしました。

今回は、そんな緊急時の情報を伝えた生放送の様子を試聴することとします。

【 番 組 の 試 聴 】

- 委員：当日、その放送を聴いていたが、
県域放送局として、身近な地域の被害状況を知ることが出来た。
- 委員：パーソナリティの2人が、落ち着いて、情報を伝えつづけていたと感じた。
とても聞きやすく、内容がよく伝わってきた。
- 委員：現地からの情報を伝えていたリポーターも、
情報が整理されていて、とても聞きやすかった。
- 委員：ひどい揺れがあった後で、余震も続く中、放送から多くの情報を得られて助けられた。
このような緊急時の放送に携わったアナウンサーやスタッフも、
やはり、同じく、この地震を体験しているわけで、
きっと私たちと同じように、恐怖感があったのではないか？
そんな中でも、放送を続けてくれたことに、改めて感謝したい。
- 事業者：地震発生時間帯は、人員が十分に揃っていた時間帯だったので、
スタッフ間の連携が、ある程度、うまくいった。
さらに、災害用マニュアルの見直しをはかり、いろいろと対応することができた。
- 委員：アナウンサーをはじめ、番組スタッフは生放送中に地震を体験した訳で、
強い揺れの中、避難を優先するのか、放送を続けるのかの判断は難しかったのではないか？
- 委員：リポーターが放送の中で、「こげくさいにおいがする」と報じていたが、
本当に近くで火災が起きていたのか疑問を感じた。
情報を伝えることに急ぎすぎると、かえって不安を煽ってしまう結果に
なりうる報道もあると感じた。
- 事業者 給油可能なガソリンスタンドの情報を伝えた結果、かえって人が集まり、
混乱を与えることになった面もあった。
- 委員：予期せぬ緊急事態を経験し、地域に密着したラジオの重要性を実感した。
改めて、こうした非常時に備えて、ラジオを用意しておくべきと感じた。
- 委員：地震当日は、実際、夜の停電中、ラジオを聴くことだけが唯一の選択肢だった。
余震も続き、不安を感じる中でも、
ラジオから情報を得られ、孤立感を緩和することが出来、気持ちが助けられた。
あのような状況の中でも、我々に向けて、情報を発信し続けてくれることのありがたさを
感じ、改めて、ラジオというメディアの重要性を実感出来た。
- 事業者 「今回の震災直後、実際に情報を得て、役に立ったメディアは？」という民放連の調査
でも、ラジオに相当の数字が集まった。
今回、改めて、ラジオのメディア的な価値を再認識した人々が多かったはず。
4月12日からは radiko を通して、放送を聴取することが出来るようになるわけで、

今後も、より一層の放送内容の充実に努めたい。

(以上)

(3) その他

第9期 審議委員、平成23年度委員長、副委員長の選出について
岡田好弘委員の退任について

(4) 次回開催日程について

次回の開催を5月12日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

- (1) 放送 4月24日(日)午後9時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
- (2) 書面 本社事務所に備え置き
- (3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし